

右構、左勝手ノ左構、段々尋ラレシ時、織部暫思案シテ、最前其元ニテ、此儀何ト申候哉ト云シ也、紀伊守失念ト云、某モ失念シタル也、織部云、兎角其座敷ニテ置合テ見テバ、慥ニ不知トテ、其座ニテ埒明ザル也、物語ニ候ヘ共、古人モ此儀六ヶ鋪被存タル所ヲ置候也、

〔茶道要録<sup>上</sup>法〕道具與道具取合之事

夫器ト器ノ取合、物好ノ肝要、數奇者タルノ眼也、方ニ圓ト、大ニ小ト、高ニ低ト、廣ニ狹、各體用相應アリ、是道ノ元ニシテ、易ニ所謂ル一陰一陽道ノ始ナリ、不得止ノ理是也、利休能識テ、用行モノカ、當道ヲ勤テ名アル人ノ説トテ云ク、釜ノ大ニ水壺ノ小ヲ用ル事、湯多ガ故ニ水ノ所用ナシ、小釜ニ大水壺ヲ用ル事、水多ク可用爲ト也、尤一理達シテ聞ニ悦ブ、我所傳不然、各大小ヲ應ズル事、陰陽體用ノ至極如前ト、或説モ亦善理ニ似タリト云共、本理ニ非ルヲ以テ不合ス、其四方ト圓形ノ辨ハ如何ン、又茶盛ノ小ニ茶盃ノ大ヲ如何トカセン、諸道其本ヲ學バンニハ不如、故ニ聖語ニ本立而道生ト云リ、

〔貞要集<sup>三</sup>〕諸道具莊置合數を定ル事附組合の事

一四疊半に、臺子袋架箆、其外何の架にても、道具爐先半疊の真中に置合する也、客着の方に疊の丸めを見申様に置合する、勿論水さし計も半疊の真中に置也、

一薄板に花入を載セ莊たるは、一ツに用、

一燒香爐を盆に載セ莊たるは、一ツに用、

一中央の卓下に花を生上に香爐盆に載せて莊たるは、二ツに用、

一茶入を袋に入盆に載、片々に茶杓載たるは、二ツに用、

一茶碗に、茶巾茶杓茶筌仕込たるは、一ツに用、

一炭斗の内に、羽箆香合火ばし組合ても、一ツに用、